

海軍公報

(部内限) 第三千五十一號

昭和十三年十一月一日(火)

海軍大臣官房

○令 達

官房第五三五一號

提 象

本年官房第一五六二號中「第一號乃至第四號」ヲ「第一號乃至第五號」ニ改メ第五號ヲ第六號トシ以下順次繰下テ第四號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

昭和十三年十月二十一日

海 軍 大 臣

五 治療品及其ノ材料又ハ原料

(参照) 本年官房第一五六二號ハ各總ニ於テ前金拂又ハ概算拂ノ契約ヲ爲シ得ルノ件ナリ(昭和十三年四月六日公報(部内限)参照)

○辭 令

飯牟禮 守一

支那方面艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限委任官待遇トス(海軍省)

(各通)

鐵道局長 上林 市太郎

鐵道書記官 佐藤 榮作

支那方面艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託ス

肥塚 與四郎

海軍ニ於ケル造機業務ヲ囑託シ部内限委任官待遇トス

(各通)

大道寺 綱吉

近藤 英兒

支那方面艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限委任官待遇トス

海軍軍醫大尉 進藤 軍二

支那方面艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託ス(以上二名同)

○雜 款

○將旗移揚

第五水雷戰隊司令官ハ十月二十九日將旗ヲ長良ヨリ刈萱ニ移揚セリ

海軍公報(部内限) 第三千五十一號

昭和十三年十一月一日

一一九二

海軍公報(部内限) 第三千五十一號 昭和十三年十一月一日

二二九二

○郵便物發送先
第一砲艦隊宛

自今

佐世保郵便局氣付砲艦長白山丸

1084

○艦船所在

指▲印△ハホセ
定ヲ要セズ

○十一月一日午前十時調

【横須賀】

對馬、夕張、鳳翔▲五十鈴▲山城▲春日▲
赤城、口陸奥、口鳥海、摩耶

口曉▲連▲狹霧、口響▲雷▲電▲羽風▲

峯雲▲、神風

口伊一、伊二、伊三、口伊六、伊七

掃二

富士▲、洲崎、鳴戸

(飛龍)▲(高崎)▲(劍崎)

【長浦】

旗風、口秋風、太刀風、山雲、口夏雲、
朝雲

呂五四、呂五五、呂五六、呂五八、

口伊一二三、伊四、伊五

【石川島】

(掃一○)▲

【横濱】

掃五▲、掃六▲

【浦賀】

北上
夕風▲
(霞)▲(不知火)▲(掃八)▲

【館山】

駒橋

【大湊】

澤風▲
波風、早苗

【函館】

大泊
若竹▲、吳竹▲

【吳】

矢矧、韓崎、比叡▲、淀、淺間、扶桑▲、古鷹▲、
加古▲、最上、日向、伊勢、口大鯨、口熊野、
鈴谷、三隈

夕顔、口菊、葵、萩、口磯波▲、綾波、浦波▲

口初雪、白雪、吹雪、口矢風

呂五一、呂五三、呂二六▲、呂二七▲

呂二八▲、伊五一▲、口伊五三▲、伊五五、

口呂三四、呂三三、口伊五七、伊五六、

伊五八、口伊七二、伊七三、伊七一▲

口伊六六、伊六五▲、伊六七、伊七四▲

口伊一二一、伊一二二、口伊七〇、伊六八、

伊六九

攝津、間宮

(千代田)、(伊一六)▲

【大阪】

(黒潮)▲

【神戸】

伊五四▲、呂五七▲、呂五九▲

(瑞穂)▲(伊八)▲(伊七五)▲

【相生】

襟裳▲、早鞆▲

【糸崎】

大井

【玉】

(掃七)▲

【因ノ島】

口朝風▲、松風▲、春風▲

【江田内】

平戸▲

【舞鶴】

吾妻▲、高雄▲、長鯨▲、愛宕▲、敷波▲

【別府】

(霧)▲(陽炎)▲(掃九)▲

帆風

海軍公報(部内限)第三千五十一號 昭和十三年十一月一日

一二九三

【佐世保】

榛名▲、那智▲、常磐▲、▽名取▲、青葉、
衣笠、▽霧島、金剛、▽阿武隈
梨▲、竹▲、榎▲、桃▲、柳▲、檜▲、蓮▲、▽夕風▲
朝風▲、▽若葉▲、初霜▲、子日▲、初春▲、
▽朝潮▲、大潮▲、滿潮▲、荒潮▲、峯風、▽野風、
沼風

呂三〇▲、呂三一▲、呂三二▲、呂六〇▲
呂六一▲、呂六二▲、呂六四▲、呂六六▲
呂六五▲、呂六七▲、▽呂六八▲、呂六三、
▽伊六三、伊五九、伊六〇、▽伊六四、
伊六一、伊六二

雁▲

敷島▲

【長崎】

(明石)▲
羽黒▲

佐多▲
(利根)▲、(筑摩)▲

【鎮海】

▽八雲、磐手
▽葦、楡、柿

【作業地】

▽沖島、出雲、▽八重山、安宅、嵯峨、鳥羽、
勢多、堅田、比良、保津、熱海、二見、
嚴島、白鷹、▽川内、▽足柄、▽球磨、
▽妙高、多摩、▽天龍、龍田、長良、▽加賀、
▽神威、能登、▽勝力、千歲、迅鯨、▽那珂、
由良、鬼怒、▽神通、▽蒼龍、龍驤

【航海中】

尻矢 (十月二十日横須賀發—羅府へ)

石廊 (十月二十八日「ホルル」發—吳へ)

伊五二 (十月三十一日小泊發—七尾へ)

伊一二四 (一日館山發—父島へ)

室戸 (一日佐世保發—吳へ)

長門、木曾、沖風 (十月三十一日横須賀發—東京灣へ)

栗、梅、蓮、▽夕立、村雨、春雨、五月雨、
▽白露、有明、夕暮、時雨、▽江風、海風、
涼風、山風、▽水無月、長月、▽薄、藤、
葛、▽芙蓉、朝顔、▽刈萱、▽菊月、夕月、
望月、三日月、▽追風、疾風、▽蓼、蓬、
菱、▽島風、汐風、灘風、阜月、▽隴、
曙、潮、▽天霧、朝霧、夕霧、▽白雲、薄雲、
叢雲、東雲、▽陸月、卯月、彌生、如月、
文月

▽隼、鵠、鴨、鴻、▽千鳥、初雁、友鶴、
真鶴、▽鳩、鷺、雉

▽掃一、掃三、掃四、▽掃二六、掃一三、
掃一四、掃一五、掃一七、掃一八
▽朝日、膠州、鶴見、知床、隠戸、野島

海軍公報

(部内限) 第三千五十二號

昭和十三年十一月二日(水)

海軍大臣官房

○令達

官房機密第二一六〇號ノ四
臨時軍事費特別會計歳出科目中左ノ通追加ス

昭和十三年十一月一日

海軍大臣

款	項	目	節	會計科目 電信略號
臨時 軍事費	海軍臨時 軍事費	(雜費)	收容費	ネ六

官房機密第五八九四號

臨時軍事費整理規程中左ノ通改正ス

昭和十三年十一月一日

海軍大臣

第二條第一六號(六)中「及埋葬料」ヲ「、埋葬料及收容費」ニ改ム

海軍公報(部内限) 第三千五十二號 昭和十三年十一月二日

一二九五

官房第五四七三號

提要

昭和十二年官房第三八七二號中末尾ニ左ノ二項ヲ加フ
前項ノ規定ハ朝鮮、臺灣、樺太、南洋群島、關東州又
ハ滿洲國ガ舊勤務地若ハ舊居住地タル者ニハ之ヲ適用
セズ但シ朝鮮、臺灣又ハ關東州ニ在ル官衛部隊附屬艦
船乗員ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ場合特設部隊ニ赴任スル者ノ家族移轉料ノ支給
區間ハ舊勤務地(初任ノ者ニ在リテハ舊)、當該部隊所管ノ
鎮守府所在地(特務士官、准士官、下士官、兵ニ在リテハ本
人ノ在籍鎮守府所在地)間トス但シ
所管ノ鎮守府ナキ特設部隊ニシテ内地外ニ在ルモノニ
赴任スル者ニ付テハ舊勤務地、佐世保市(特務士官、准士
官、下士官、兵ニ在リテハ本人ノ在籍鎮守府所在地)間トス

昭和十三年十一月一日

海軍大臣

○辭令

○ 雜 款

○ 郵便物發送先

特設病院船橋丸宛

自 今

吳

○ 郵便物發送先變更

瑞穂艦裝具事務所宛

自 今

神戸 海軍監督官事務所内

○ 艦船便乗者ニ關スル件照會

佐世保發作戦地行艦船便乗ニ關シ各部ヨリ屢本府へ問合セノ向有之候モ本件ハ海軍省及各鎮、各要司令部宛通報セラレ居リ候ニ就キ准士官以上ノ便乗希望者ハ最寄司令部ニ問合セノ上便乗艦船ヲ豫定シ成ル可ク早期ニ通報方御取計ヲ得度

(佐世保鎮守府)

航空局航空官 石田 正規

佐世保鎮守府ニ於ケル事務囑託ノ報酬トシテ金百拾

圓ヲ贈與ス

佐世保鎮守府ニ於ケル事務囑託ハ解ク

航空局航空官 中島 傳

佐世保鎮守府ニ於ケル事務ヲ囑託ス(以上十九日海軍

省)

横山 良一

青島海軍特務部ニ於ケル事務囑託ヲ解ク

古賀 秀樹

北支海軍特務部ニ於ケル事務囑託ヲ解ク(以上三十日

同)

(各通)

外務省警部補 永松 順次郎

徳田 住男

第四艦隊ニ於ケル事務囑託ヲ解ク(計三回同)

海軍艦政本部造船監
督官海軍造船少佐

飯河 晶

大阪監理官ヲ命ス

海軍艦政本部造兵監
督官海軍造兵大尉

寺田 重義

神戸監理官ヲ命ス(以上十二日同)

○艦船所在 指定ヲ要セズ

○十一月二日午前十時調

【横須賀】

對馬、夕張、風翔、五十鈴、山城、春日、赤城、長門、木曾、陸奥、鳥海、摩耶、曉、漣、狹霧、響、雷、電、羽風、神風

伊一、伊二、伊三、伊六、伊七

掃二

富士、洲崎、鳴戸

(飛龍) (高崎) (劍埼)

【長浦】

旗風、秋風、太刀風、山雲、夏雲、朝雲、峯雲、沖風

呂五四、呂五五、呂五六、呂五八

伊一三三、伊四、伊五

【石川島】

(掃一〇)

【横濱】

掃五、掃六

【浦賀】

北上

夕風

(霞) (不知火) (掃八)

【館山】

駒橋

澤風

【大湊】

波風、早苗

大泊

【函館】

若竹、吳竹

【吳】

矢矧、韓崎、比叡、淀、淺間、扶桑、古鷹、加古、最上、大井、日向、伊勢、大鯨、熊野、鈴谷、三隈

夕顔、菊、葵、萩、磯波、綾波、浦波、初雪、白雪、吹雪、矢風

呂五一、呂五三、呂二六、呂二七、呂二八、伊五一、伊五三、伊五五、伊五七、伊五六、伊五八、伊七二、伊七三、伊七一、伊六六、伊六五、伊六七、伊七四、伊一二一、伊二二二、伊七〇、伊六八、伊六九

攝津、間宮

(千代田) (伊一六)

【大阪】

(黒潮)

【神戸】

伊五四、呂五七、呂五九

(瑞穂) (伊八) (伊七五)

【相生】

襟裳、早鞆

【玉】

(掃七)

【因ノ島】

朝風、春風

【江田内】

平戸

【舞鶴】

吾妻、高雄、長鯨、愛宕、敷波

【西郷】

(掖) (陽炎) (掃九)

【七尾】

帆風

伊五二

海軍公報(部内限) 第三千五十二號

昭和十三年十一月二日

一一九七

【佐世保】

榛名▲、那智▲、常磐▲、▷名取▲、青葉、
衣笠、▷霧島、金剛、▷阿武隈
梨▲、竹▲、樵▲、桃▲、柳▲、檜▲、蕙▲、▷夕風▲
朝風▲、▷若葉▲、初霜▲、子日▲、初春▲、
▷朝潮▲、大潮▲、滿潮▲、荒潮▲、峯風、▷野風、
沼風

呂三〇▲、呂三一▲、呂三二▲、呂六〇▲、
呂六一▲、呂六二▲、呂六四、▷呂六六、
呂六五▲、呂六七、▷呂六八、呂六三、
▷伊六三、伊五九、伊六〇、▷伊六四、
伊六一、伊六二

雁▲

敷島▲

(明石)▲

羽黒▲

佐多▲

(利根)▲(筑摩)▲

八雲、磐手

葦、楡、柿

【作業地】

▷沖島、出雲、▷八重山、安宅、嵯峨、鳥羽、
勢多、堅田、比良、保津、熱海、二見、
嚴島、白鷹、▷川内、▷足柄、▷球磨、
▷妙高、多摩、▷天龍、龍田、長良、▷加賀、
▷神威、能登呂、勝力、千歲、迅鯨、▷那珂、
由良、鬼怒、▷神通、▷蒼龍、龍驤

【航海中】

栗、梅、連、▷夕立、村雨、春雨、五月雨、
▷白露、有明、夕暮、時雨、▷江風、海風、
涼風、山風、▷水無月、長月、▷薄、藤、
葛、▷芙蓉、朝顔、▷刈萱、▷菊月、夕月、
望月、三日月、▷追風、疾風、▷蓼、蓬、
菱、▷島風、沙風、灘風、臯月、▷朧、
略、潮、▷天霧、朝霧、夕霧、▷白雲、薄雲、
叢雲、東雲、▷睦月、卯月、彌生、如月、
文月

▷隼、鶴、鴨、鴻、▷千鳥、初雁、友鶴、

真鶴、▷鳩、鷺、雉

▷掃一、掃三、掃四、▷掃二六、掃一三、

掃一四、掃一五、掃一七、掃一八

▷朝日、膠州、鶴見、知床、隠戸、野島

尻矢 (十月二十日横須賀發—羅府へ)

石廊 (十月二十八日「ホルル」發—吳へ)

伊一二四 (一日館山發—父島へ)

室戸 (一日佐世保發—吳へ)

海軍公報 (部内限) 第三千五十三號

昭和十三年十一月四日(金)
海軍大臣官房

○ 辭令

氣象臺技師 種村 郁三
支那方面艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託シ報酬年額貳千貳百八拾圓ヲ贈與ス

氣象臺技師 守田 康太郎
支那方面艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託シ報酬月額百貳拾五圓ヲ贈與ス

(各通)

濱田 喜幸
唐津 進

支那方面艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託シ報酬月額百拾圓ヲ贈與ス(以上計七品海軍省)

海軍技術會議議員海軍大佐 星野 應韶

海軍艦政本部技術會議議員ヲ命ス

朝日工作部附海軍技手 小森 寅一

吳海軍工廠附ヲ命ス

海軍技術研究所勤務兼海軍艦政本部造兵監督助手 同 谷島 寶三郎

兼海軍艦政本部附ヲ命ス

第三艦隊軍法會議附海軍警査 福田 喜作
兼支那方面艦隊軍法會議附ヲ命ス(以上二品同)

○ 雜款

○司令驅逐艦變更
第十一驅逐隊司令ハ十月二十八日司令驅逐艦ヲ一時初雪ヨリ白雪ニ變更同月三十一日復歸セリ

○郵便物發送先
吳防備戰隊司令部及驅逐艦矢風宛
十一月九日迄ニ到達見込ノモノハ 門 司
其ノ後ハ 吳

○郵便物再送ニ關スル件照會
中支方面宛郵便物ニシテ十月八日佐世保發野島及十月十日佐世保發佐賀丸ニ搭載セリト認メルモノハ事故ノ爲不到達ニ付調査ノ上至急再送方御取計相成度
(支那方面艦隊副官)

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第三千五十三號 昭和十三年十一月四日

一一九九

○艦船所在 指定ヲ要セズ

○十一月四日午前十時調

【横須賀】 對馬、夕張、鳳翔、五十鈴、山城、春日、

赤城、長門、木曾、陸奥、鳥海、摩耶

□曉、漣、狹霧、響、雷、電、羽風、

神風

□伊一、伊二、伊三、伊六、伊七

掃二

富士、洲崎、鳴戸

(飛龍) (高崎) (劍崎)

【長浦】 旗風、秋風、太刀風、山雲、夏雲、

朝雲、峯雲、沖風

呂五四、呂五五、呂五六、呂五八、

伊四、伊五

【石川島】 (掃一〇)

【横濱】 掃五、掃六

【浦賀】 北上

夕風

(霞) (不知火) (掃八)

【館山】 澤風

【父島】 伊一二三、伊一二四

【大湊】 波風、早苗

大泊

【函館】 若竹、吳竹

【吳】

矢矧、韓崎、比叡、淀、淺間、扶桑、古鷹、

加古、大井、日向、伊勢、大鯨、

熊野、鈴谷、三隈

夕顔、菊、葵、萩、磯波、綾波、浦波、

□初雪、白雲、吹雪、矢風

呂五一、呂五三、呂二六、呂二七、

呂二八、伊五一、伊五三、伊五五、

伊五八、伊七二、伊七三、伊七一、

伊六六、伊六五、伊六七、伊七四、

伊一二一、伊一二二、伊七〇、伊六八、

伊六九

攝津、間宮、室戸

(千代田) (伊一六)

【大阪】 (黒潮)

【神戸】 伊五四、呂五七、呂五九

(瑞穂) (伊八) (伊七五)

【相生】 襟裳、早鞠

【玉】 (掃七)

【因ノ島】 朝風、松風、春風

【江田内】 平戸

【那中】 最上

【舞鶴】 吾妻、高雄、長鯨、愛宕、敷波

(掖) (陽炎) (掃九)

伊五二

【佐世保】

榛名▲、那智▲、常磐▲、▷名取▲、青葉、
衣笠、▷霧島、金剛、▷阿武隈
梨▲、竹▲、樵▲、桃▲、柳▲、檜▲、蕁▲、▷夕風▲
朝風▲、▷若葉▲、初霜▲、子日▲、初春▲
▷朝潮▲、大潮▲、滿潮▲、荒潮▲、峯風、沼風
▷呂三〇▲、▷呂三一▲、▷呂三二▲、▷呂六〇▲
▷呂六一▲、▷呂六二▲、▷呂六四▲、▷呂六六▲
▷呂六五▲、▷呂六七▲、▷呂六八▲、▷呂六三▲
▷伊六三、▷伊五九、▷伊六〇、▷伊六四、
▷伊六一、▷伊六二

【長崎】

敷島▲、隠戸
(明石)▲
羽黒▲
佐多▲
(利根)▲(筑摩)▲

【鎮海】

▷八雲、磐手
楡

【作業地】

▷沖島、出雲、▷八重山、安宅、嵯峨、鳥羽、
勢多、堅田、比良、保津、熱海、二見、
嚴島、白鷹、▷川内、▷口足柄、▷球磨、
▷妙高、多摩、▷天龍、龍田、▷長良、▷加賀、
▷神威、能登呂、勝力、千歳、迅鯨、▷那珂、
由良、鬼怒、▷神通、▷蒼龍、龍驤、
駒橋

【航海中】

尻矢 (十月二十日横須賀發—羅府—)
石廊 (十月二十八日「ホノルル」發—吳—)
▷野風 (三日佐世保發—那霸—)
帆風 (四日美保灣發—舞鶴—)
▷葦、柿 (四日鎮海發—釜山—)

栗、梅、蓮、▷夕立、村雨、春雨、五月雨、
▷白蜜、有明、夕暮、時雨、▷江風、海風、
涼風、山風、▷水無月、長月、▷薄、藤、
葛、▷芙蓉、朝顔、刈萱、▷菊月、夕月、
望月、三日月、▷追風、疾風、▷蓼、蓬、
菱、▷島風、沙風、灘風、阜月、▷隴、
曙、潮、▷天霧、朝霧、夕霧、▷白雲、薄雲、
叢雲、東雲、▷睦月、卯月、彌生、如月、
文月
▷隼、鵠、鴨、鴻、▷千鳥、初雁、友鶴、
眞鶴、▷鳩、鷺、雉
▷掃一、掃三、掃四、▷掃一六、掃一三、
掃一四、掃一五、掃一七、掃一八
▷朝日、膠州、鶴見、知床、野島

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 號外

昭和十三年十一月四日 (金)
海軍大臣官房

○ 令 達

官房第一二九一號ノ六

海軍購買名簿中左ノ通改正ス

昭和十三年十一月二日

海 軍 大 臣

一 地金、礦石類第二五項ニ左ノ如ク加フ

日本曹達株式會社

東京市麴町區大手町二丁目八

高岡工場

高岡市向野町

二 金屬、材料類第一四項ノ次ニ左ノ如ク加フ

住友金屬工業株式會社

大阪市此花區島屋町三七

伸銅所

大阪市此花區島屋町五六

一四 機銃用ガルデンングメタル板

古河電氣工業株式會社

東京市麴町區丸ノ内二丁目八

日光電氣精銅所

栃木縣上都賀郡日光町字清瀧

二 金屬、材料類第一六項品名「藥莢黃銅圓板」ヲ「藥莢黃銅板」ニ改ム

二 金屬、材料類第四〇項中「光洋精工株式會社」ヲ「光洋精工株式會社」ニ改ム
(航空機用ヲ除ク)
(航空發動機用ヲ除ク)

海軍公報 (部内限) 號外

二 金屬、材料類第五二項ニ左ノ如ク加フ		東京アルミニウム工業株式會社		東京市澁谷區下通二丁目二三		澁谷工場 仙川工場		東京市澁谷區下通二丁目二三 東京府北多摩郡神代村下仙川	
三 機械、器具類第四項中株式會社加藤精機製作所ノ所在地及工場所在地ヲ東京市蒲田區糀谷町四丁目一七六一ニ改ム		不二越鋼材工業株式會社		富山市石金二〇		富山市石金二〇			
三 機械、器具類第七項中「日本合同鋳株式會社」ヲ「日本鋳株式會社」ニ改ム		東京瓦斯電気工業株式會社		東京市大森區入新井一丁目一〇〇		大森工場 羽田工場		東京市大森區入新井一丁目一〇〇 東京市蒲田區江戶見町	
三 機械、器具類第一六項ニ左ノ如ク加フ		合名會社福岡精工所		福岡市大字比惠一一〇				福岡市大字比惠一一〇	
		合名會社特殊工作所		尼崎市西長洲一丁目一八				尼崎市西長洲一丁目一八	

三 機械、器具類第一六項及同第一八項中東洋製罐株式會社ノ工場名ヲ「廣島製作工場」ニ改ム	三 機械、器具類第一六項及同第一八項中日本精機株式會社ノ所在地ヲ廣島市吉島本町五九八ニ改ム	三 機械、器具類第二二項ニ左ノ如ク加フ	極東研磨砥石株式會社	吳市吉浦町二五一		吳市吉浦町二五一
			水田豐之助	廣島市楠木町二丁目四 四三	廣島金剛砥石製造所	廣島市楠木町二丁目 四四三
三 機械、器具類第二六項ニ左ノ如ク加フ	不二越鋼材工業株式會社	富山市石金二〇	株式會社津上製作所	東京市麴町區丸ノ内三 丁目四	長岡工場	富山市石金二〇
						長岡市藏王町三八〇
三 機械、器具類第五〇項ヲ削ル	三 機械、器具類第五二項ノ次ニ左ノ如ク加フ	株式會社島津製作所	京都市中京區河原町通 七條下ル一ノ船入町三 七八	三條工場	京都市中京區三條西 大路	
四 電氣機械、器具、材料類第一二項ニ左ノ如ク加フ	株式會社井上電機製作所	京都市乙訓郡向日町大 字寺戸	京都市乙訓郡向日町 大字寺戸			

1096

<p>四 電気機械、器具、材料類第一三項ニ左ノ如ク加フ</p>	<p>大阪變壓器株式會社 (三、〇〇〇キロ未滿)</p>	<p>大阪市東淀川區元今里 北通三丁目一四</p>	<p>大阪市東淀川區元今 里北通三丁目一四</p>
<p>四 電気機械、器具、材料類第二三項、同第二六項及同第二七項中栗原電機株式會社ノ所在地及工場所在地 ヲ東京市荏原區中延町三四八ニ改ム</p> <p>四 電気機械、器具、材料類第三八項ニ左ノ如ク加フ</p>	<p>藤介電線株式會社</p>	<p>東京市深川區平久町一 丁目四</p>	<p>東京市深川區平久町 一丁目四</p>
<p>四 電気機械、器具、材料類第五三項及同第五四項ニ左ノ如ク加フ</p>	<p>大阪變壓器株式會社</p>	<p>大阪市東淀川區元今里 北通三丁目一四</p>	<p>大阪市東淀川區元今 里北通三丁目一四</p>
<p>五 計器、通信器類第一九項ニ左ノ如ク加フ</p>	<p>合資會社大田計器製 作所 (テネロイド氣壓計ノミ)</p>	<p>東京市本郷區湯島新花 町三四</p>	<p>東京市本郷區湯島新 花町三四</p>
<p>五 計器、通信器類第二〇項中「合資會社大田計器製作所」ヲ「合資會社大田計器製作所」ニ改ム (溫度記錄計ノミ)</p>			
<p>五 計器、通信器類第二四項中東京機器工業株式會社ノ工場所在地ヲ川崎市巾島一ニ改ム</p>			
<p>五 計器、通信器類第二七項品名欄ニ「水平指力計」ヲ加フ</p>			

六 鉛鎖、索具類第二項ノ次ニ左ノ如ク加フ		大阪製鎖造機株式会社 大阪市此花區春日出上 五丁目二九		大阪市此花區春日出上 五丁目二九	
二ノ 鑄鋼鉛鎖、鐵鎖 同上附屬品共		株式会社小松製作所 石川縣能美郡小松町字 八日市町地方五		石川縣能美郡小松町 字八日市町地方五	
六 鉛鎖、索具類第八項中 「關西製綱株式会社」ヲ「關西製綱株式会社」ニ改ム (機雷繫索ノミ)		「關西製綱株式会社」ヲ「關西製綱株式会社」ニ改ム			
一〇 ガラス類第一項品名中「水面計用ガラス板」ヲ「一般用水面計ガラス板」ニ改ム		東京電氣株式会社 川崎市堀川町七二		川崎市堀川町七二	
二ノ 水面計用ガラス板 (蒸氣壓力二〇 ² 以上ヲ受クルモノ)		東京電氣株式会社 川崎市堀川町七二		川崎市堀川町七二	
一〇 ガラス類第五項ノ次ニ左ノ如ク加フ		旭硝子株式会社 藤倉工業株式会社		鶴見硝子工場 浦和工場	
六 有機ガラス		東京市麴町區丸ノ内二 丁目六		横濱市鶴見區末廣町 一丁目一	
一一 ゴム類第一項ニ左ノ如ク加フ		東京市品川區五反田三 丁目一三二		浦和市常盤町五丁目 八一	
		高砂ゴム工業株式会社 東京市目黒區上目黒二 丁目一九四五		東京市目黒區上目黒 二丁目一九四五	

海軍公報 (部内限) 號外

五

1098

一一	ゴム類第三項ニ左ノ如ク加フ			
		東京護謨株式会社	東京市淀橋區上落合一丁目一九	東京市淀橋區上落合一丁目一九
一一	ゴム類第九項中「ブリヂストンタイヤ株式会社」ヲ「ブリツヂストンタイヤ株式会社」ニ改ム			
一二	油脂、蠟類第七項及同第八項ニ左ノ如ク加フ			
		新津恒吉	新潟市沼垂牛街道四九一四	新潟製油所 新潟市沼垂牛街道四九一四
一二	油脂、蠟類第九項中新津恒吉ノ所在地ヲ新潟市沼垂牛街道四九一四ニ改ム			
一二	油脂、蠟類第一項ヲ削ル			
一三	ペイント原料類第一項品名「油性ペイント (堅練ペイントヲ含ム)」ヲ「防銹ペイント」ニ改メ左ノ如ク加フ	松下塗料株式会社 (クロミオンニ限ル)	東京市澁谷區並木町一	東京市澁谷區並木町一
一三	ペイント及原料類第二項ノ一、同第二項ノ二、同第二項ノ三、同第二項ノ五、同第二項ノ六、同第五項ノ一、同第五項ノ二及同第五項ノ三ノ各項ヲ削ル			
一三	ペイント及原料類第四項ノ三ニ左ノ如ク加フ	日本特殊塗料株式会社	東京市王子區豊島町八七三	東京市王子區豊島町八七三

1099

一四 藥品類第一項中日産化學工業株式會社ノ「木下川工場」ヲ「王子工場」ニ改メ同工場所在地ヲ東京市王子區豊島町一七〇〇ニ改ム

一四 藥品類第一項及同第一二項中大日本製藥株式會社ノ行ヲ削ル

一七 雜品類第六項中大倉和親ノ所在地及工場所在地ヲ東京市蒲田區西六郷一丁目四ニ改ム

一七 雜品類第二〇項及同第二八項中オリエンタル寫眞工業株式會社ノ所在地及工場所在地ヲ東京市澁橋區西落合二丁目四三〇ニ改ム

二三 治療品第五項ニ左ノ如ク加フ

株式會社 學研究所	デージー化	東京市板橋區志村本 蓮沼町一八三	東京市板橋區志村本 蓮沼町一八三
--------------	-------	---------------------	---------------------

四 電氣機械、器具、材料類第三〇項及同第三二項中東電電球株式會社ノ所在地ヲ東京市麴町區有樂町一丁目三ニ改ム

海軍公報 (部内限) 號外

昭和十三年十一月四日(金)
海軍大臣官房

○ 令 達

官房機密第一三六四號ノ六
臨時海軍購買名簿中左ノ通改正ス

昭和十三年十一月二日

海 軍 大 臣

(限 内 部)

二 金屬、材料類第五項ニ左ノ如ク加フ 淀川銅管株式會社 (銅管ノミ) (徑一〇吋以下) 尼崎市難波本町一丁目 四八 大阪伸銅所 尼崎市難波本町一丁目 四八 大阪市西淀川區蒲島 町四三			
二 金屬、材料類第八項ノ次ニ左ノ如ク加フ 特殊輕合金株式會社 (板、棒ノミ) 株式會社日本アルミ (ニユーム製造所) (板、棒ノミ)			
東京市麴町區丸ノ内一丁目六	大垣工場	大垣市室村町一八三	東京市麴町區丸ノ内一丁目六 大垣工場 大垣市室村町一八三
東京市京橋區寶町一丁目七	大阪伸銅所	大阪市東淀川區宮原町四七二	東京市京橋區寶町一丁目七 大阪伸銅所 大阪市東淀川區宮原町四七二

海軍公報 (部内限) 號外

二	金屬、材料類第一四項ニ左ノ如ク加フ	昭和鑛業株式會社	東京市京橋區寶町一丁目七	大阪仲銅所	大阪市西淀川區蒲島町四三
		株式會社豐崎伸銅所	大阪市東淀川區長柄濱通一丁目三		大阪市東淀川區長柄濱通一丁目三
二	金屬、材料類第一四項ノ次ニ左ノ如ク加フ	昭和鑛業株式會社	東京市京橋區寶町一丁目七	大阪仲銅所	大阪市西淀川區蒲島町四三
		株式會社豐崎伸銅所	大阪市東淀川區長柄濱通一丁目三		大阪市東淀川區長柄濱通一丁目三
一七	ネーバル黃銅板	株式會社後藤機械工	東京市大森區入新井五丁目二五一		東京市大森區入新井五丁目二五一
		株式會社守安ドリル	吳市二河通一丁目一		吳市二河通一丁目一
二	金屬、材料類第二二項ニ左ノ如ク加フ	昭和鑛業株式會社	東京市京橋區寶町一丁目七	大阪仲銅所	大阪市西淀川區蒲島町四三
		株式會社豐崎伸銅所	大阪市東淀川區長柄濱通一丁目三		大阪市東淀川區長柄濱通一丁目三
三	機械、器具類第八項ノ次ニ左ノ如ク加フ	株式會社後藤機械工	東京市大森區入新井五丁目二五一		東京市大森區入新井五丁目二五一
		株式會社守安ドリル	吳市二河通一丁目一		吳市二河通一丁目一
九	振	株式會社後藤機械工	東京市大森區入新井五丁目二五一		東京市大森區入新井五丁目二五一
		株式會社守安ドリル	吳市二河通一丁目一		吳市二河通一丁目一

三	機械、器具類第一二項及同第一三項中「合資會社特殊亞鉛工業所」ヲ「大阪精機工業株式會社」ニ改ム				
三	機械、器具類第一六項ニ左ノ如ク加フ				
		株式會社秋木機械製作所	秋田縣山本郡能代港町御指南町二三		秋田縣山本郡能代港町御指南町二三
		日本建鐵工業株式會社	東京市荒川區三河島町七丁目七八〇		東京市荒川區三河島町七丁目七八〇
三	機械、器具類第二二項中極東研磨砥石株式會社及水田豊之助ノ各行ヲ削リ左ノ如ク加フ	ワシントン研削砥石株式會社	大阪市西區新町通四丁目四二	京都工場	京都市伏見區竹田中川原五八
三	機械、器具類第二六項中株式會社津上製作所ノ行ヲ削ル				
三	機械、器具類第三三項及同第三四項ニ左ノ如ク加フ	株式會社後藤機械工具製作所	東京市大森區入新井五丁目二五一		東京市大森區入新井五丁目二五一
三	機械、器具類第三八項ノ次ニ左ノ如ク加フ				
三九	空氣發動機	合資會社太陽空氣機械製作所	東京市蒲田區今泉町三九		東京市蒲田區今泉町三九
四	電氣機械、器具、材料類第九項ニ左ノ如ク加フ	株式會社中央電機製作所	大阪市旭區今福町二一四		大阪市旭區今福町二一四

1103

四 電気機械、器具、材料類第一二項中株式會社井上電機製作所ノ行ヲ削ル
 五 計器、通信器類中ニ左ノ如ク加フ

一三 攜帶用回轉速度計	株式會社倉本計器精工所 株式會社岡原計器製作所 (ハスラー型ノミ) 合資會社富崎製作所 (ホーン型ノミ)	東京市蒲田區原町三三〇 東京市京橋區銀座六丁目三 東京市目黒區中根町二一四二	東京市蒲田區原町三三〇 東京市品川區北品川四丁目五五六 東京市目黒區中根町二一四二	
一一 ゴム類第四項ノ次ニ左ノ如ク加フ	ブリツヂェストンタイヤ株式會社	東京市麴町區内幸町二丁目一	久留米市京町一〇五	
一二 油脂、蠟類中ニ左ノ如ク加フ	五一 一號 内部 礮油	朝鮮石油株式會社	京城府黃金町一丁目一八〇	元山工場 元山府浦下洞一四
六一 二號 内部 礮油	朝鮮石油株式會社	京城府黃金町一丁目一八〇	元山工場 元山府浦下洞一四	
一〇 白綾油、種子油	熊澤製油合資會社	四日市市末廣町二	四日市市末廣町二	
一二 油脂、蠟類第一五項ニ左ノ如ク加フ	熊澤製油合資會社	四日市市末廣町二	四日市市末廣町二	

一五	皮革類中ニ左ノ如ク加フ				
一茶	象皮	廣藤皮革株式會社	東京市向島區吾嬬町東七丁目一九		東京市向島區吾嬬町東七丁目一九
(ハツキン用ヲ除ク)	大野富則		東京市荒川區三河島町二丁目二〇五	大野製革所	東京市荒川區三河島町二丁目二〇五
一七	雜品類第二三項ノ次ニ左ノ如ク加フ				
三〇	コルク粒板	東京理工株式會社	東京市葛飾區本田川端町五五六		東京市葛飾區本田川端町五五六
	部外祕臨時海軍購買名簿之部				
一	砲煩之部第六項ニ左ノ如ク加フ	株式會社大昌工作所 (七・七耗ノミ)	千葉市穴川町二六三		千葉市穴川町二六三
一六	電動機之部(兵器)第四項ノ次ニ左ノ如ク加フ				
一二	航空機用小型電動機	中央工業株式會社	東京市京橋區木挽町三丁目四	大森工場	東京市大森區堤方町二三二
二〇	無線電信電話之部(兵器)中ニ左ノ如ク加フ				
一〇	超短波無線電信電話機	日本無線電信電話株式會社 日電電波工業株式會社	東京府北多摩郡三鷹村上連雀字狐久保通南九三〇 仙臺市長町字山根街道南四七		東京市品川區東大崎二丁目二九一 仙臺市長町字山根街道南四七
		明昭電機株式會社	東京市芝區西應寺町五三		東京市芝區西應寺町五三

海軍公報(部内限) 號外

五

1105

二〇 航空機用無線電信電話 機	日本電氣株式會社	東京市芝區三田四國町	玉川工場	川崎市下沼部玉川向 一七五三
	沖電氣株式會社	東京市麴町區丸ノ内一 丁目六		東京市芝區西芝浦四 丁目一
	安立電氣株式會社	東京市麻布區富士見町 三九		東京市麻布區富士見 町三九
二〇 無線電信電話之部 (兵器) 第二六項中「(但シ精密級空氣蓄電器及誘導線輪ヲ除ク)」及山中電機株式會社ノ行ヲ削ル	東京市芝區西應寺町五 三			
	東京市芝區西應寺町 五三			
二〇 無線電信電話之部 (兵器) 第二六項ノ二ヲ削ル	東京市芝區西應寺町 五三			
	東京市芝區西應寺町 五三			
二〇 無線電信電話之部 (兵器) 第三四項ノ三ニ左ノ如ク加フ	東京市芝區西應寺町 五三			
	東京市芝區西應寺町 五三			
二〇 無線電信電話之部 (兵器) 第三九項中「小川無線工業株式會社」ヲ「松 下無線株式會社」ヲ「松下無線株式會社」ニ改メ (航空機用ヲ除ク)	東京市芝區西應寺町 五三			
	東京市芝區西應寺町 五三			
二〇 無線電信電話之部 (兵器) 第三四項ノ二及同第三四項ノ三中日本無線電信電話株式會社ノ所在地ヲ東 京府北多摩郡三鷹村上連雀字狐久保通南九三〇ニ改ム	東京市芝區西應寺町 五三			
	東京市芝區西應寺町 五三			
二〇 無線電信電話之部 (兵器) 第四三項ノ次ニ左ノ如ク加フ	東京市芝區西應寺町 五三			
	東京市芝區西應寺町 五三			
四八 航空無線用發電動機	中央工業株式會社	東京市京橋區木挽町三 丁目四	大森工場	東京市大森區堤方町 二三二
	株式會社山洋商會	東京市麴町區内幸町一 丁目一		東京市豊島區西巢鴨 一丁目二九三八

二七 航空兵器之部第二五項ニ左ノ如ク加フ	株式會社 畑製作所 (架橋ノ除ク)	横濱市神奈川區南淺間 町二二	横濱市神奈川區南淺間 町二二
二七 航空兵器之部第四八項ノ次ニ左ノ如ク加フ	日本精機工業株式會社	東京市大森區大森四丁 日四一	東京市大森區大森四 丁日四一
		東京市品川區西大崎一 丁目三六	東京市品川區西大崎 一丁目三六
	株式會社 神保電器製 作所	東京市大森區新井宿七 丁目一〇	東京市大森區新井宿 七丁目一〇
	大島電機工業株式會社	東京市品川區西大崎一 丁目三六	東京市品川區西大崎 一丁目三六
五二 航空機用配電盤、接續 箱、分電路盤、電燈受 金、發音器、押釦、抵抗 器、以上類似品加工品	日本精機工業株式會社	東京市大森區大森四丁 日四一	東京市大森區大森四 丁日四一
五一 航空機用接斷器、轉換 器	大島電機工業株式會社	東京市品川區西大崎一 丁目三六	東京市品川區西大崎 一丁目三六
		株式會社 神保電器製 作所	東京市大森區新井宿七 丁目一〇

1107

海軍公報

(部内限) 第三千五十四號

昭和十三年十一月五日(土)

海軍大臣官房

○令 達

官房第五五二九號

授 受

本年勅令第五百六十六號、海軍武官任用令第十八條及同第二十八條ノ規定ニ依リ海軍造船科、造機科及造兵科士官ヲ採用ス之ガ取扱ニ關シ左ノ通定ム

昭和十三年十一月五日

海 軍 大 臣

一 本年十一月三十日ニ於テ六級俸以下ノ海軍技師若ハ昭和十四年四月一日ニ於テ年齡滿三十二歳以下ノ海軍技手ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノ又ハ昭和十四年四月一日ニ於テ年齡滿三十二歳以下ノ海軍囑託若ハ工員ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當シ現ニ造船、造機又ハ造兵ノ業務ニ従事スルモノニシテ海軍造船科、造機科又ハ造兵科士官タランコトヲ志願スルモノハ本年十二月十日迄ニ別紙様式ニ依ル願書ニ履歷書、戸籍謄本及身元證明書ヲ添ヘ順序ヲ經テ海

軍大臣ニ願出ツベシ

(一) 大學令ニ依ル大學ノ工學部又ハ理學部ニ於テ學課ヲ修メ學士ト稱スルコトヲ得ル者

(二) 造船、造機又ハ造兵ニ必要ナル學術技藝ヲ教授スル専門學校又ハ之ト同等以上ノ學校ニ於テ造船科、造機科又ハ造兵科ノ士官ニ必要ナル學課ヲ修メ卒業シタル者

二 本年十一月三十日ニ於テ五級俸以上ノ海軍技師ニシテ前項第一號又ハ第二號ノ一ニ該當シ海軍造船科、造機科又ハ造兵科士官ニ適スト認ムルモノアル場合ハ其ノ旨海軍省人事局長ヲシテ之ヲ本人ニ通知セシム
前記ノ通知ヲ受ケタル者ニシテ海軍造船科、造機科又ハ造兵科士官タランコトヲ志願スルモノハ第一項ノ手續ニ依リ昭和十四年二月末日迄ニ海軍大臣ニ願出ツベシ
三 所轄長ハ第一項ノ志願者ニ就キ別紙様式ニ依ル考

海軍公報(部内限) 第三千五十四號 昭和十三年十一月五日

一三〇三

課表ヲ調製シ本年十二月二十日迄ニ順序ヲ經テ之ヲ
海軍大臣ニ送達スベシ
四 海軍大臣ハ海軍武官任用委員ヲシテ昭和十四年二
月中旬迄ニ第一項ノ志願者ノ任用試験ヲ行ハシム
(別紙三葉添)

○ 通牒

官房第五五三八號

昭和十三年十一月五日

海軍省 提 要

各廳長殿

勅使御差遣、幣帛下賜ニ關スル件通牒



勅任待遇以上ノ者死去ノ際ニ於ケル首題ノ件ハ今般左
記ノ通改定相成本年十一月十日以降ノ死者ニ對シ實施
セラルル趣宮内次官ヨリ内報有之候條御了知相成度

記

一、左ニ掲グル者死去ノ節ハ勅使ヲ喪家ニ御差遣幣帛
ヲ下賜セラル

宮中席次第一階第十五以上ノ者

宮中席次第一階第十五以上タリシ者

二、左ニ掲グル者死去ノ節ハ幣帛ヲ下賜セラル
宮中席次第三階第二十七以上ノ者

海人第一號ノ一三九

昭和十三年十一月五日

海軍省人事局長

關係各所轄長宛

海軍造船科、造機科及造兵科士官

任用區分ニ關スル件申進

本年官房第五五二九號ニ依ル海軍造船科、造機科及造
兵科士官ノ任用ハ左記區分ニ依リ實施セラルルモノト
了知相成度

記

一、海軍技師又ハ技手ハ本年勅令第五百六十六號ニ依
リ銓衡ノ上技師ニ在リテハ概ネ同官等ノ海軍造船
科、造機科又ハ造兵科士官ニ、技手ニ在リテハ海軍
造船、造機又ハ造兵中、少尉ニ夫々任用セラル

二、海軍囑託又ハ工員ニシテ大學令ニ依ル大學ノ工學
部又ハ理學部ニ於テ學課ヲ修メ學士ト稱スルコトヲ
得ルモノニシテ現ニ造船、造機又ハ造兵ノ業務ニ從
事スルモノハ海軍武官任用令第十八條ノ規定ニ依リ

銓衡ノ上海軍造船、造機又ハ造兵中尉ニ任用セラル
 三、海軍囑託又ハ工員ニシテ造船、造機又ハ造兵ニ必
 要ナル學術技藝ヲ教授スル專門學校又ハ之ト同等以
 上ノ學校ニ於テ造船科、造機科又ハ造兵科ノ士官ニ
 必要ナル學課ヲ修メ卒業シタルモノニシテ現ニ造
 船、造機又ハ造兵ノ業務ニ従事スルモノハ海軍武官
 任用令第二十八條ノ規定ニ依リ銓衡ノ上海軍造船、
 造機又ハ造兵少尉ニ任用セラル

航本機密第八三三一號

昭和十三年十一月四日

海軍航空本部總務部長

各海軍航空隊司令
 各母艦(航空水上機)艦長
 各飛行機搭載艦艦長

航空隊現狀報告ニ關スル件

艦艇防備隊航空隊現狀報告規則ニ依リ調製ノ首題ノ件
 爾今寫トシテ二部當部宛送付ヲ得度

追テ昭和十年航本機密第三九〇號(昭和十年三月三日)
 及昭和十一年十月十九日航本機密第三三三三號ハ之
 ヲ廢止致候

齊

(封筒六三八頁)

○辭令

第五海軍軍用郵便所長ヲ命ス
 通信事務官 前田 周一

(各通)
 通信書記 赤淵 英磨
 同 星 茂
 同 渡邊 正男

第五海軍軍用郵便所員ヲ命ス
 通信事務員 中村 虎平
 同 橋 清
 同 武藤 譽明

第五海軍軍用郵便所員ヲ命ス
 但シ身分ノ取扱ハ雇員トス
 集配手 小笠原 孝治
 同 山本 力雄
 同 高橋 惣作
 同 丸山 美英
 同 青野 介之助

(各通)
 同 森 清太郎

第五海軍軍用郵便所員ヲ命ス
 但シ身分ノ取扱ハ雇員トス

海軍公報(部内限)第三千五十四號 昭和十三年十一月五日

一三〇五

(各通)

土居 節
山田 悌二郎

廣東海軍特務部ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額貳千四百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

町田 利勝

廣東海軍特務部ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額貳千七百六拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(ニモテ海軍省)

海軍大尉 佐藤 欣重

東京軍法會議判士ヲ免ス

海軍大尉 福島 勉

高等軍法會議判士ヲ免ス

東京軍法會議判士ヲ免ス(三ノ四同)

海軍大佐 原 鼎三(利根)

軍艦利根審議委員ヲ命ス

海軍大佐 龍崎 留吉

軍艦利根審議委員ヲ免ス(以上ニモテ海軍艦政本部)

海軍機關少佐 松井 登兵

技術部第三課勤務ヲ命ス(ニモテ海軍航空本部)

○雜款

○特設運送船金龍丸行動豫定

地名 着

舞鶴 十一月一日

大湊 十一月三日

横須賀 十一月六日

吳磨 十一月九日

播磨 十一月十日

大坂 十一月十二日

横須賀 十一月十六日

神戶 十一月十七日

吳保 十一月二十二日

佐世 十一月二十二日

基隆 十一月二十七日

十月三十一日
十一月二日

十一月五日

十一月九日

十一月十一日

十一月十五日

十一月十七日

十一月二十一日

十一月二十五日

十一月二十五日

1111

現官等級俸	現官等級俸	現官時ノ官等停年	「造兵少尉 三年」	経歴 (註記ヨ後業卒校學) (トコノ略省ハ前以年九正大但)													年齢																				
				年次	配置	業務	記事	年次	配置	業務	記事	年次	配置	業務	記事																						
「甲上甲上甲上(甲)某」	「甲上甲上甲上(甲)某」	「甲中甲上甲中甲(甲)某」	「甲中甲上甲中甲(甲)某」	和昭5	「吳廠電氣部」	「電氣外業工事並ニ」	「海軍(5-6) (工手) 入業」	6	「電氣外業工事並ニ」	「電氣内外業工事」	「電氣無線兵器ノ検査」	「電氣外業工事」	7	「電氣内外業工事」	「電氣無線兵器ノ検査」	8	「電氣外業工事」	9	「電氣無線兵器ノ検査」	10	「電氣無線兵器ノ検査」	11	「電氣無線兵器ノ検査」	12	「電氣無線兵器ノ検査」	13	「電氣無線兵器ノ検査」	14	「電氣無線兵器ノ検査」	15	「電氣無線兵器ノ検査」	和昭2	「電氣無線兵器ノ検査」	3	「電氣無線兵器ノ検査」	4	「電氣無線兵器ノ検査」

1112

備考

- (一) 拔擢順序ハ左記ニ区分シ一連ノ番號ヲ附スルコト
艦本系ハ 艦政本部ノ部別(第一部-第六部)ニ從フコト但分析等右ノ何レニモ入ラザルモノハ拔擢順序ヲ要セズ
- (二) 航本系ハ 發動機、機體(風洞水槽ヲ含ム)、兵器(計器ヲ含ム)、材料ニ分ツコト
過去三年間ノ考課ハ技師、奏任待遇囑託並ニ直轄ノ技手及判任待遇囑託ニ付テハ人事局ニ於テ、其ノ他ノ者ニ付テハ各人事部ニ於テ記註スルモノトス但シ工具ニ付テハ本欄ノ記註ヲ要セズ
- (三) 考課評語ノ行ハ性情、技能、勤務、總評(身體)、考課官氏名ノ順序ニ記註スルモノトス
轉官時ノ官等停年ハ轉官時ノ官等標準ニ依ルモノトシ之ニ依ルコト能ハザルモノハ其ノ理由ヲ記入コト
- (四) 様式中「」内ハ記入例ヲ示ス

身元證明書式(用紙美濃白紙)

官房多摩丸(海軍)

身元證明書

本籍

氏

名

何年何月何日生

一、兵役ノ關係(武官トシテ陸軍ノ兵籍ニ在ルモノハ任用セズ)

一、禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナシ

一、破産又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタルコトナシ又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタル

モ復権ヲ得タリ

右ノ通相違ナシ

年 月 日

市(區)町(村)長 氏

名

(別紙)

願書式其ノ一(用紙美濃白紙)

(昭和十三年十一月十五日公報(部内限))

本籍

現住所

年 月 日

職官位勳 氏

名

海軍大臣 宛

海軍造船科士官(海軍造船機科士官)任用願
海軍造兵科士官

私儀昭和十三年勅令第五百六十六號ニ依ル海軍造船科士官(海軍造船機科士官)志願
ニ付任用相成度

(履歴書、戸籍謄本並身元證明書添)

(終)

願書式其ノ二(用紙美濃白紙)

本籍

現住所

年月日

職位勲氏

名

海軍大臣宛

海軍造船少尉(海軍造機少尉)任用願

年月日

(履歴書、戸籍謄本並身元證明書添)

(終)

戸主又ハ戸主トノ續柄

氏名

何年何月何日生

何年何箇月

一、修學及卒業シタル學校名(中等學校以上)並ニ其ノ年月日(修業證書寫、卒業證書

寫ヲ別紙トシテ添附スルヲ要ス)

二、海軍文官、囑託又ハ工員トシテノ經歷

右ノ通相違ナシ

年月日

右氏名

○艦船所在

▲印ハハホノ
指定ヲ要セズ

○十一月五日午前十時調

【横須賀】

對馬、夕張、鳳翔▲五十鈴▲山城▲春日▲
赤城、木曾、口陸奥、口鳥海、摩耶

▽曉▲漣▲狹霧、▽響▲雷▲電▲羽風▲

神風

▽伊一、伊二、伊三、▽伊六、伊七

掃二

富士▲、洲崎、鳴戸

(飛龍)▲(高崎)▲(劍埼)

【長浦】

旗風、▽秋風、太刀風、山雲、▽夏雲、
朝雲、峯雲、沖風

呂五四、呂五五、呂五六、呂五八、
伊四、伊五

【石川島】

(掃一○)▲

【横濱】

掃五▲、掃六▲

【浦賀】

北上▲
夕風▲
(霞)▲(不知火)▲(掃八)▲

【下田】

長門

【館山】

澤風▲
波風、早苗

【大湊】

大泊

【函館】

若竹▲、吳竹▲

【吳】

▽矢矧、韓崎、比叡▲淀、淺間、扶桑▲古鷹▲
加古▲、大井、日向、伊勢、▽大鯨、
▽熊野、鈴谷、三隈

夕顔、▽菊、葵、萩、▽磯波▲綾波、浦波▲

▽初雪、白雪、吹雪

呂五一、呂五三、呂二六▲、呂二七▲

呂二八▲、伊五一▲、▽伊五三▲、伊五五、
伊五八、▽伊七二、伊七三、伊七一▲

伊六六、伊六五▲、伊六七、伊七四▲

伊一二一、伊一二二、▽伊七〇、伊六八、
伊六九

攝津、間宮、室戸

(千代田)、(伊一六)▲

(黒潮)▲

伊五四▲、呂五七▲、呂五九▲

(瑞穂)▲(伊八)▲(伊七五)▲

襟裳▲、早鞆▲

(掃七)▲

因ノ島、▽朝風▲、松風▲、春風▲

江田内、平戸▲

郡中、最上

角島、▽矢風

舞鶴、吾妻▲、高雄▲、長鯨▲、愛宕▲、敷波▲、帆風

伊五二▲

【佐世保】

(菘)▲(陽炎)▲(掃九)▲
 榛名▲、那智▲、常磐▲、▷名取▲、青葉、
 衣笠、▷霧島、金剛、▷阿武隈
 梨▲、竹▲、榎▲、桃▲、柳▲、檜▲、葦▲、▷夕風▲、
 朝風▲、▷若葉▲、初霜▲、子日▲、初春▲、
 ▷朝潮▲、大潮▲、滿潮▲、荒潮▲、峯風、沼風、
 呂三〇▲、呂三一▲、呂三二▲、呂六〇▲、
 呂六一▲、呂六二▲、呂六四、▷呂六六、
 呂六五▲、呂六七、▷呂六八、呂六三、
 ▷伊六三、伊五九、伊六〇、▷伊六四、
 伊六一、伊六二

【長崎】

雁▲
 敷島▲、隠戸
 (明石)▲
 羽黒▲
 佐多▲

【鎮海】

(利根)▲(筑摩)▲
 ▷八雲、磐手
 ▷葦、柿、楡

【作業地】

▷沖島、出雲、▷八重山、安宅、鯉嶋、鳥羽、
 勢多、堅田、比良、保津、熱海、二見、
 殿島、白鷹、▷川内、▷足柄、▷球磨、
 ▷妙高、多摩、▷天龍、龍田、▷長良、▷加賀、
 神威、能登呂、勝力、千歳、迅鯨、▷那珂、
 由良、鬼怒、▷神通、▷蒼龍、龍驤、駒橋

【航海中】

栗、梅、蓮、▷夕立、村雨、春雨、五月雨、
 ▷白露、有明、夕暮、時雨、▷江風、海風、
 涼風、山風、▷水無月、長月、▷薄、藤、
 葛、▷芙蓉、朝顔、刈萱、▷菊月、夕月、
 望月、三日月、▷追風、疾風、▷蓼、蓬、
 菱、▷島風、汐風、灘風、阜月、▷臘、
 曙、潮、▷天霧、朝霧、夕霧、▷白雲、薄雲、
 叢雲、東雲、▷睦月、卯月、彌生、如月、
 文月
 ▷隼、鵠、鴨、鴻、▷千鳥、初雁、友鶴、
 真鶴、▷鳩、鷺、雉
 ▷掃一、掃三、掃四、▷掃一六、掃一三、
 掃一四、掃一五、掃一七、掃一八
 ▷朝日、膠州、鶴見、知床、野島
 尻矢 (十月二十日横須賀發—羅府へ)
 石廊 (十月二十八日「ホノルル」發—吳へ)
 ▷野風 (三日佐世保發—那覇へ)
 ▷伊一二三 (四日父島發—横須賀へ)
 伊一二四 (四日父島發—元村へ)

海軍公報 (部内限) 第三千五十五號

昭和十三年十一月七日(月)
海軍大臣官房

○令達

官房機密第一一號ノ五〇

昭和十三年十一月七日

海軍大臣

各鎮守府司令長官
舞鶴要港部司令官
兵器簿ノ件通達

各艦船部隊學校兵器簿砲術長主管之部中左記ノ通改正ス

記

區分類別	改正品名	舊品名	記事
改正各種吉耗機銃	三號電池六器入格納筐一器入	三號電池六器入外筐一器入	品名改正

○辭令

海軍技術會議議員 海軍大佐 濱田 淨

海軍艦政本部技術會議議員ヲ命ス

上海駐在ヲ免ス

海軍主計特務中尉 友松 忠好

上海駐在ヲ命ス

同 相川 政次郎

支那方面艦隊司令部附

海軍書記

丸岡 克巳

軍令部附ヲ命ス

軍令部附同 相馬 悌二

支那方面艦隊司令部附ヲ命ス(以上対馬海軍省)

○雜款

○旗艦復歸

第五水雷戰隊司令官ハ十一月三日旗艦ヲ長良ニ復歸セリ

○郵便物發送先

第五水雷戰隊司令部宛

十一月二十五日迄ニ到達見込ノモノハ

軍艦多摩氣付

海軍公報(部内限) 第三千五十五號 昭和十三年十一月七日

一三〇九

1117

其ノ後ハ 軍艦長良氣付

軍艦赤城宛

十一月八日迄ニ到達見込ノモノハ 横須賀

同 十五日迄ニ 同 横須賀

其ノ後ハ 横須賀

驅逐艦太刀風宛

自今 横須賀

特務艦鳴戸宛

十二月一日迄ニ到達見込ノモノハ 佐世保郵便局氣付

其ノ後ハ 横須賀

○残務整理

特務艦洲崎殘務整理ハ横須賀同艦内ニ於テ之ヲ行フ

○伊太利飛行機ノ本邦飛來豫定變更(十月二十一日)

一、乗員 操縦者 Maner Lunaldi

操縦助手 Giuseppe Mazzetti

無線電信技師 Silvio Pina

機關士 Guerrino Guerrini

二、使用機 BR二〇號(標識 I-FIAT)

三、目的 伊太利日本間連絡飛行

四、航空路

(イ) 河内、臺北間

河内、臺北間ニ於テハ交戦區域ニ航入セザル様注意スベシ

南支那海ニ於テ大日本帝國艦船ニ遭遇シタル場合ハ直チニ之ヨリ離隔スル様行動シツツ高度ヲ五百米以下ニ下ゲ飛行スベシ

河内出發後ハ臺北無線電信局ト密接ナル連絡ヲ取リ行動ヲ明カニスベシ

河内、臺北間ノ飛行ニハ通常左ノ第一航空路ニ依ルベシ但シ萬一氣象情況極メテ不良ニシテ第一航空路ヲ取ルコト能ハザル場合ハ左ノ第二航空路ヲ取ルコトヲ得

〔第一航空路〕

河内出發後「バシ」海峡ヲ經テ臺灣東海岸線ノ外側二十軒ヲ北航シ宜蘭上空ニ出デ基隆要塞ヲ避ケ臺北飛行場ヘ

〔第二航空路〕

河内出發後澎湖島及高雄要塞地帯ヲ避ケ澎湖島南方海上ヨリ臺南上空ニ出デ之ヨリ鐵道線路又ハ海岸線ニ沿ヒ臺北飛行場ヘ但シ臺南ニ入ル場合ハ高度千五百米以下トシ爾後鐵道線路又ハ海岸線ニ沿ヒ高度千五百米以下ニテ飛行スベシ

(ロ) 臺北、立川間

臺北ヨリ基隆、奄美大島要塞ヲ避ケ直路佐多岬

ニ出デ潮岬ニ直航シ次デ伊豆南端、江ノ島ヲ經テ立川陸軍飛行場ヘ但シ舊東京市上空ノ飛行ハ之ヲ禁ズ
尙本航路ニ付テハ臺北飛行場長ノ指示ヲ受クベシ

五、著陸場

臺北飛行場

立川陸軍飛行場

六、條

(一) 帝國領土航空中ハ帝國航空法規ヲ遵守スベシ

(二) 要塞地帯及要塞地帯法第七條ニ定メラレタル區域竝軍港、要港ノ上空ノ飛行ハ之ヲ嚴ニ禁止ス尙南西諸島及臺灣竝其ノ領海ハ軍機保護法施行規則ニ定ムル飛行禁止區域ニ付前記指定航路ヲ除キテハ該區域ニ航入セザル様注意スベシ

(三) 夜間飛行ニ際シテハ規定ノ燈火ノ外特別ニ眞下ヲ照ラス強力ナル白色燈火ヲ點ズベシ

(四) 復航ハ前記往復ノ逆トス

七、期 日 十一月十日頃東京着ノ豫定

○正誤



本月一日辭令欄中「進藤寅二」ハ「進藤宙二」ノ誤

海軍公報(部内限) 第三千五十五號 昭和十三年十一月七日

一三一

1119

○艦船所在 指▲印▲ハ▲ホ▲フ
指定ヲ要セズ

○十一月七日午前十時調

【横須賀】

對馬、夕張、鳳翔▲五十鈴▲山城▲春日▲
赤城、木曾、長門、陸奥、鳥海、摩耶
▽曉▲、連▲、狭霧、響▲、雷▲、電▲、羽風▲
神風
伊一、伊二、伊三、伊六、伊七
掃二

【長浦】

(飛龍)▲(高崎)▲(劍埼)
旗風、秋風、大刀風、山雲、夏雲、
朝雲、峯雲、沖風
呂五四、呂五五、呂五六、呂五八、
伊四、伊五
掃五

【石川島】

(掃一○)▲

【横濱】

掃六▲

【浦賀】

北上▲

【館山】

夕風▲
(霞)▲(不知火)▲(掃八)▲
澤風▲

【大湊】

伊一二四
波風、早苗
大泊

【函館】

若竹▲、吳竹▲
矢矧、韓崎、比叡、淀、淺間、扶桑▲、古鷹▲、
加古▲、大井、最上、日向、伊勢、▽大鯨、
▽熊野、鈴谷、三隈
▽夕顔、▽白菊、葵、萩、▽磯波▲、綾波、浦波▲
▽初雪、白雪、吹雪、▽朝風
呂五一、呂五三、呂二六▲、呂二七▲
呂二八▲、伊五一▲、伊五三▲、伊五五▲、
呂三四、呂三三、伊五七、伊五六、
伊五八、伊七二、伊七三、伊七一▲
伊六六、伊六五▲、伊六七、伊七四▲
伊一二二、伊一二三、伊七〇、伊六八、
伊六九

【大阪】

(黒潮)▲

【神戸】

伊五四▲、呂五七▲、呂五九▲
(瑞穂)▲(伊八)▲(伊七五)▲

【相生】

襟裳▲、早鞆▲

【玉】

(掃七)▲

【因ノ島】

松風▲、春風▲

【江田内】

平戸▲

【角島】

矢風

【舞鶴】

吾妻▲、高雄▲、長鯨▲、愛宕▲、敷波▲、帆風
伊五二▲

海軍公報(部内限)第三千五十五號

昭和十三年十一月七日

一三三三

【佐世保】

(蔽)▲(陽炎)▲(掃九)▲

椽名▲、那智▲、常磐▲、▷名取▲、青葉、
衣笠、▷霧島、金剛▲、▷阿武隈

梨▲竹▲榧▲桃▲柳▲檜▲葦▲、▷夕風▲
朝風▲、▷若葉▲、初霜▲、子日▲、初春▲

▷朝潮▲、大潮▲、滿潮▲、荒潮▲、峯風

▷呂三〇▲、▷呂三一▲、▷呂三二▲、▷呂六〇▲、
▷呂六一▲、▷呂六二▲、▷呂六四▲、▷呂六六▲、
▷呂六五▲、▷呂六七▲、▷呂六八▲、▷呂六三▲、
▷伊六三▲、▷伊五九▲、▷伊六〇▲、▷伊六四▲、
▷伊六一▲、▷伊六二▲

雁▲

敷島▲、隱戸

【呼子】

沼風

(利根)▲(筑摩)▲

【鎮海】

葦、柿、楡

【作業地】

▷沖島、出雲、▷八重山、安宅、嵯峨、鳥羽、
勢多、堅田、比良、保津、熱海、二見、
嚴島、白鷹、▷川内、▷足柄、▷球磨、
▷妙高、多摩、▷天龍、龍田、▷長良、▷加賀、
神威、能登呂、勝力、千歲、迅鯨、▷那珂、
由良、鬼怒、▷神通、▷蒼龍、龍驥、駒橋、

▷八雲、磐手

栗、梅、蓮、▷夕立、村雨、春雨、五月雨、
▷白露、有明、夕暮、時雨、▷江風、海風、
涼風、山風、▷水無月、長月、▷薄、藤、
葛、▷芙蓉、朝顔、刈萱、▷菊月、夕月、
望月、三日月、▷追風、疾風、▷蓼、蓬、
菱、▷島風、沙風、灘風、阜月、▷臙、
曙、潮、▷天霧、朝霧、夕霧、▷白雲、薄雲、
叢雲、東雲、▷陸月、卯月、彌生、如月、
文月

▷隼、鶴、鴨、鴻、▷千鳥、初雁、友鶴、
真鶴、▷鳩、鷺、雉

▷掃一、掃三、掃四、▷掃一六、掃一三、
掃一四、掃一五、掃一七、掃一八

▷朝日、膠州、鶴見、知床、野島

【航海中】

尻矢 (十月二十日横須賀發—羅府へ)
石廊 (十月二十八日「ホノルル」發—吳へ)

▷伊一二三 (四日父島發—横須賀へ)

▷野風 (六日那霸發—佐世保へ)

鳴戸 (六日横須賀發—徳山へ)

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第三千五十六號

昭和十三年十一月八日(火)

海軍大臣官房

○感 状

感 状

三原海軍大尉ノ指揮セシ

高雄海軍航空隊 飛行機隊

昭和十三年九月二十八日長驅克ク敵國西南ノ要衝昆
明ヲ強襲シ軍事諸施設ヲ撃破シ飛行場所在ノ敵機十
數機ヲ爆破炎上セシメ更ニ反撃シ來レル敵戦闘機ト
交戦其ノ過半ヲ撃墜シタルハ武勳顯著ナリ
仍テ茲ニ感状ヲ授與ス

昭和十三年十月一日

支那方面艦隊司令長官 及川古志郎

○令 達

官房機密第五九九三號

今次事變中ニ限リ小銃及内外附砲銃身精度検査ハ砲銃
主要兵器試験検査規則第七十三條第一號ノ規定ニ拘ラ
ズ左記ノ通之ヲ實施スベシ

昭和十三年十一月八日

海 軍 大 臣

記

- 一 銃身ヲ確實ニ固定シ銃口前一〇〇米ノ位置ニ垂直
的(小銃射撃用標的ノ類)ヲ樹テ之ニ向ヒテ五發ノ
彈丸ヲ逐次ニ發射シ其ノ彈痕ノ最モ密集セル部ニ縱
二四〇耗横二〇〇耗ノ矩形ヲ當テ該矩形内ノ彈痕數
ヲ數フ
- 二 矩形ノ長邊ハ常ニ之ヲ垂直ニ保ツヲ要ス
- 三 矩形ノ邊ニ觸ルル彈痕ハ矩形内ニ入リタルモノト
シテ數フ

海軍公報(部内限) 第三千五十六號

昭和十三年十一月八日

一三一五

1122

四 矩形内ノ彈痕數三發以上ナルトキハ合格トス
 五 矩形内ノ彈痕數二發以下ナルトキハ更ニ五發ヲ發射シ再ビ二發以下ナルトキハ不合格トス
 六 規定彈ノ内三發ヲ發射セシトキ彈痕矩形内ニ密集セルコト明ナル場合ハ爾後ノ發射ヲ施行セザルコトヲ得

官房機密第五九九四號
 臨時軍事費整理規程中左ノ通改正ス

昭和十三年十一月八日

海軍大臣

第二條第四號(中)「服役延期者」ノ上ニ「被召集員竝ニ」ヲ加フ

○ 辭令

軍令部課長海軍大佐	星野 應韶
第四部第十課長ヲ命ス	
軍令部出仕同	庄司 芳吉
第四部勤務ヲ命ス	
同	同
同	大和田 昇
副官部勤務ヲ命ス	

第三部第六課勤務ヲ命ス	同	海軍中佐	志波 國彬
第四部第十一課勤務ヲ命ス	同	同	深町 讓
第四部第十課勤務ヲ命ス	同	海軍少佐	山崎 規矩夫
第三部第六課勤務ヲ命ス	同	同	吉元 家彦
(各通)	同	海軍大尉	岡崎 善吉
第四部第十一課勤務ヲ命ス	同	同	伊藤 勉一
第二部第四課勤務ヲ命ス(以上ニ軍令部)	同	海軍機關中佐	松尾 祐一
通信部第十一課勤務ヲ命ス(海軍大佐)	同	海軍少佐	宿谷 平治
通信部第十課長ヲ命ス	同	海軍大佐	星野 應韶
通信部第十一課勤務ヲ命ス	同	海軍中佐	深町 讓
通信部第十課勤務ヲ命ス	同	海軍少佐	山崎 規矩夫

圖 書 名	標記番號	類別番號	參謀部第三部第六課勤務ヲ命ス (各通) 海軍大尉 岡崎 善吉 同 伊藤 勉一 通信部第十一課勤務ヲ命ス 同 伊藤 春樹 參謀部第三部第八課勤務ヲ命ス(以上二同)	
			同 吉元 家彦	
○雜款				
○艦裝員事務所設置 第十一號驅潛艇艦裝員事務所ヲ橫濱市鶴見區鶴見製鐵 造船株式會社内ニ設置シ十一月五日ヨリ事務ヲ開始セ リ				
○郵便物發送先 志賀部隊宛 自今 佐世保郵便局留置				
○軍事教育圖書 去ル十月中納庫セル軍事教育普圖書左ノ如シ 海軍 文庫				
			氣象學礎石 上卷	海軍省教普 第一一四一號普 備品 九三二八號
			氣象器械學	海軍省教普 第一一四二號普 備品 九三三九號
			社旗ト煙突	海軍省教普 第一〇四〇號普 備品 一三一〇三號
			ローマ字自習參考	海軍省教普 第一一四三號普 備品 四三〇四號
			新支那現勢要覽	海軍省教普 第一一三八號普 備品 六七五號
			日本精神文化大系 第五卷	海軍省教普 第一〇六〇號普 備品 一〇六二五號
			陸上小運送讀本	海軍省教普 第一〇五九號普 備品 一三二八八號

海軍公報(部内限) 第三千五十六號 昭和十三年十一月八日

一三一七

1124

○艦船所在 ▲印ハ「ホ」ホノ
指定ヲ要セズ

○十一月八日午前十時調

【横須賀】 對馬、夕張、鳳翔▲、五十鈴▲、山城▲、春日▲、

赤城、木曾、長門、口陸奥、口島海、摩耶

口曉▲、漣▲、狹霧、口響▲、雷▲、電▲、羽風▲

口伊一、伊二、伊三、口伊六▲、伊七▲

掃二

富士▲、洲崎

(飛龍)▲、(高崎)▲、(劍崎)▲

【長浦】 旗風、口秋風、山雲、口夏雲、朝雲、

峯雲、沖風、神風

呂五四、呂五五、呂五六、呂五八、

伊四、伊五、口伊一二三、伊一二四

掃五

【石川島】 太刀風

(掃一○)▲

【横濱】 掃六▲

北上▲

【浦賀】 夕風▲

(霞)▲、(不知火)▲、(掃八)▲

【大湊】 波風、早苗

【函館】 若竹▲、吳竹▲

【吳】 矢矧、韓崎、比叡▲、淀、淺間、扶桑▲、古鷹▲

加古▲、大井、最上、日向、伊勢▲、口大鯨、

口熊野、鈴谷、三隈

夕顔、口菊、葵、萩、口磯波▲、綾波、浦波▲

口初雪、白雪、吹雪、口朝風

呂五一、呂五三、呂二六▲、呂二七▲

呂二八▲、伊五一▲、口伊五三▲、伊五五、

口呂三四、呂三三、口伊五七、伊五六、

口伊五八、口伊七二、伊七三、伊七一、

口伊六六▲、伊六五▲、伊六七、伊七四、

口伊一二一、伊一二二、口伊七〇、伊六八、

伊六九

攝津、間宮、室戸

(千代田)、(伊一六)▲

【大阪】 (黒潮)▲

伊五四▲、呂五七▲、呂五九▲

【神戸】 (瑞穂)▲、(伊八)▲、(伊七五)▲

襟裳▲、早鞆▲

【相生】 (掃七)▲

【因ノ島】 松風▲、春風▲

【江田内】 平戸▲

【門司】 矢風

【舞鶴】 吾妻▲、高雄▲、長鯨▲、愛宕▲、敷波▲、帆風

伊五二▲

(霞)▲、(陽炎)▲、(掃九)▲

【佐世保】 榛名▲、那智▲、常磐▲、口名取▲、青葉、

海軍公報(部内限) 第三千五十六號 昭和十三年十一月八日

一三一九

衣笠、▽霧島、金剛、▽阿武隈
 梨、竹、樵、桃、柳、檜、葦、▽夕風、
 朝風、▽若葉、初霜、子日、初春、
 ▽大潮、朝潮、滿潮、荒潮、峯風、▽野風
 呂三〇、呂三一、呂三二、呂六〇、
 呂六一、呂六二、呂六四、呂六六、
 呂六五、呂六七、▽呂六八、呂六三、
 ▽伊六三、伊五九、伊六〇、▽伊六四、
 伊六一、伊六一
 雁、
 敷島、隱戸
 (明石)▲
 沼風
 羽黒▲
 佐多▲
 (利根)▲(筑摩)▲
 【鎮海】▽葦、柿、楡
 【作業地】▽沖島、出雲、▽安宅、八重山、嵯峨、鳥羽、
 勢多、堅田、比良、保津、熱海、二見、
 殿島、白鷹、▽川内、▽足柄、▽球磨、
 ▽妙高、多摩、▽天龍、龍田、▽長良、▽加賀、
 神威、能登呂、勝力、千歲、迅鯨、▽那珂、
 由良、鬼怒、▽神通、▽蒼龍、龍驤、駒橋、
 ▽八雲、磐手
 栗、梅、蓮、▽夕立、村雨、春雨、五月雨、

▽白露、有明、夕暮、時雨、▽江風、海風、
 涼風、山風、▽水無月、長月、▽薄、藤、
 葛、▽芙蓉、朝顔、刈萱、▽菊月、夕月、
 望月、三月月、▽追風、疾風、▽蓼、蓬、
 菱、▽島風、沙風、灘風、卓月、▽朧、
 曙、潮、▽天霧、朝霧、夕霧、▽白雲、薄雲、
 叢雲、東雲、▽睦月、卯月、彌生、如月、
 交月、澤風
 ▽隼、鵠、鴨、鴻、▽千鳥、初雁、友鶴、
 眞鶴、▽鳩、鷺、雉
 ▽掃一、掃三、掃四、▽掃一六、掃一三、
 掃一四、掃一五、掃一七、掃一八
 ▽朝日、膠州、鶴見、知床、野島
 【航海中】
 尻矢 (十月二十日横須賀發—羅府—)
 石廊 (十月二十八日「ホノルル」發—吳—)
 鳴戸 (六日横須賀發—徳山—)

海軍公報 (部内限) 第三千五十七號

海軍大臣官房

昭和十三年十一月九日(水)

○令達

官房機密第六〇一四號

左記ニ依リ海軍工機學校ニ於テ臨時内火機械取扱講習ヲ施行ス

左記第四號ノ講習員ヲ海軍工機學校ニ入校セシムルト共ニ其ノ職階氏名ヲ海軍工機學校長ニ通報スベシ

昭和十三年十一月九日

海軍大臣

一 目的

海軍特修兵ニアラザル海軍機關兵ニ内火機械取扱一般ノ業務ニ關シ概ネ普通科機關術練習生掌内火機械術教程修了者ニ代リ得ル程度ノ術力ヲ賦與スルニ在リ

二 講習科目

艦船ノ内火機械及同關聯裝置取扱法

三 講習期間

四 講習員

昭和十三年十一月下旬ヨリ約二箇月半

(一) 左記諸號ニ適合スル者ノ中ヨリ之ヲ選抜ス

一 品行方正ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者

二 内火機械ノ取扱者ト爲スニ適當ナル性能學力ヲ有スト認ムル者

三 海軍特修兵ニアラザル海軍機關兵

員數

横須賀鎮守府 一、二〇名以内

五 講習員ノ取扱

(一) 本講習員ノ身上取扱ハ各種練習生ニ準ズ

(二) 本講習修了者ハ掌内火機械術特技兵ト稱シ當分ノ間普通科機關術練習生掌内火機械術教程修了者ニ代用スルモノトス

本講習修了者ハ掌内火機械術特技兵ト稱シ當分ノ間普通科機關術練習生掌内火機械術教程修了者ニ代用スルモノトス

本講習修了者ハ掌内火機械術特技兵ト稱シ當分ノ間普通科機關術練習生掌内火機械術教程修了者ニ代用スルモノトス

本講習修了者ハ掌内火機械術特技兵ト稱シ當分ノ間普通科機關術練習生掌内火機械術教程修了者ニ代用スルモノトス

本講習修了者ハ掌内火機械術特技兵ト稱シ當分ノ間普通科機關術練習生掌内火機械術教程修了者ニ代用スルモノトス

○辭令

海軍公報 (部内限) 第三千五十七號 昭和十三年十一月九日

一三二二

1127

軍令部出仕海軍中佐 小野良二郎
第一部第一課勤務ヲ命ス(海軍令部)

海軍大佐 圓山英勅
通信部第十一課勤務ヲ命ス(海軍令部)

○ 雜款

○司令驅逐艦變更
第二十五驅逐隊司令ハ十一月七日司令驅逐艦ヲ朝潮ヨ
リ大潮ニ復歸セリ

○郵便物發送先
第三掃海隊宛
自今 吳

第一砲艦隊首里丸分離行動中同艦宛
自今 佐世保郵便局氣付

○正誤
本月五日令達欄官房第五二九號別表考課表様式所見
竝ニ考課ノ欄中「勤務」ハ「勤務」ノ誤

○ 艦船所在 印ハハホフ
指定ヲ要セズ

○十一月九日午前十時調

【横須賀】

對馬、夕張、鳳翔、五十鈴、山城、春日、赤城、木曾、長門、陸奥、鳥海、摩耶、曉、漣、狹霧、響、雷、電、羽風、伊一、伊二、伊三、伊六、伊七、掃二

富士、洲崎

(飛龍) (高崎) (劍崎)

【長浦】

旗風、秋風、山雲、夏雲、朝雲、峯雲、沖風、神風、呂五四、呂五五、呂五六、呂五八、伊四、伊五、伊一二三、伊一二四、掃五

【石川島】

大刀風 (掃一〇)

【横濱】

掃六、北上

【浦賀】

夕風 (霞) (不知火) (掃八)

【館山】

澤風、早苗

【大湊】

大泊、若竹、吳竹

【函館】

【吳】

矢矧、韓崎、比叡、澁、淺間、扶桑、古鷹、加古、大井、最上、日向、伊勢、大鯨、熊野、鈴谷、三隈、夕顔、菊、葵、萩、磯波、綾波、浦波、初雪、白雪、吹雪、朝風

呂五一、呂五三、呂二六、呂二七、呂二八、伊五一、伊五三、伊五五、呂三四、呂三三、伊五七、伊五六、伊五八、伊七二、伊七三、伊七一、伊六六、伊六五、伊六七、伊七四、伊一二一、伊一二二、伊七〇、伊六八、伊六九

攝津、開宮、室戸

(千代田) (伊一六)

(黒潮)

伊五四、呂五七、呂五九

(瑞穂) (伊八) (伊七五)

襟裳、早鞆

(掃七)

松風、春風

平戸

鳴戸

吾妻、高雄、長鯨、愛宕、敷波、帆風、伊五二

(霞) (陽炎) (掃九)

海軍公報 (部内限) 第三千五十七號

昭和十三年十一月九日

一三三三

【佐世保】

榛名▲、那智▲、常磐▲、▷名取▲、青葉、
衣笠、▷霧島、金剛▲、▷阿武隈
梨▲、竹▲、榎▲、桃▲、柳▲、檜▲、董▲、▷夕風▲、
朝風▲、▷若葉▲、初霜▲、子日▲、初春▲、
▷大潮▲、朝潮▲、滿潮▲、荒潮▲、峯風、▷野風
呂三〇▲、呂三一▲、呂三二▲、呂六〇▲、
呂六一▲、呂六二▲、呂六四、▷呂六六、
呂六五▲、呂六七、▷呂六八、呂六三、
▷伊六三、伊五九、伊六〇、▷伊六四、
伊六一、伊六一

【博多】

沼風
羽黒▲

(利根)▲(筑摩)▲

【鎮海】

【作業地】▷沖島、出雲、▷安宅、嵯峨、鳥羽、勢多、
堅田、比良、保津、熱海、二見、嚴島、
八重山、白鷹、▷川内、▷足柄、▷球磨、
▷妙高、多摩、▷天龍、龍田、▷長良、▷加賀、
神威、能登呂、勝力、千波、迅鯨、▷那珂、
由良、鬼怒、▷神通、▷蒼龍、龍驤、駒橋、
▷八雲、磐手

【航海中】

栗、梅、蓮、▷夕立、村雨、春雨、五月雨、
▷白露、有明、夕春、時雨、▷江風、海風、
涼風、山風、▷水無月、長月、▷薄、藤、
蒿、▷芙蓉、朝顔、刈萱、▷菊月、夕月、
望月、三月月、▷追風、疾風、▷蓼、蓬、
菱、▷島風、沙風、灘風、阜月、▷臘、
曙、潮、▷天霧、朝霧、夕霧、▷白雲、薄雲、
叢雲、東雲、▷陸月、卯月、彌生、如月、
文月
▷隼、鵠、鴨、鴻、▷千鳥、初雁、友鶴、
真鶴、▷鳩、鷺、雉
▷掃一、掃三、掃四、▷掃一六、掃一三、
掃一四、掃一五、掃一七、掃一八
▷朝日、膠州、鶴見、知床、野島

尻矢 (十月二十日横須賀發—羅府—)
石廊 (十月二十八日「ホノルル」發—吳—)
▷矢風 (九日門司發—豊後水道—)

海軍公報 (部内限) 第三千五十八號

昭和十三年十一月十日 (木)
海軍大臣官房

○令達

官房機密第六〇三四號

昭和十三年十一月十日

海軍大臣

各鎮守府司令長官
舞鶴要港部司令官

兵器保管轉換ノ件訓令

海軍軍需部及舞鶴要港部軍需部保管並ニ供用中ノ左記
兵器ヲ艦營需品ニ保管轉換スベシ

記

硫酸銅
鋸屑
水雷長主管

○通牒

軍需第二〇六號

昭和十三年十一月十日

海軍省軍需局

關係各廳御中

海軍燃料廠生産「メタノール」ニ

關スル件通知

海軍燃料廠ニ於テ生産スル「メタノール」ノ品種及規
格ハ左記ノ通ニ有之候
記

○辭令

品種別	規格	比重 (攝氏5度)	反應	色調	純度	其ノ他
一號「メタノール」	〇、七九五—〇、八〇二	中	無色清澄	九八%以上	蒸溜水ニ溶解スル モ混濁ヲ生ゼズ	
二號「メタノール」	〇、八〇〇—〇、八二	極微酸性	無色清澄ナルモ未蒸溜品ナルタ メ時日ノ經過ト共ニ僅少ノ沈澱 物ヲ生ズルコトアリ	九〇%以上	蒸溜水ニテ稀釋スルトキハ多少 白濁ヲ生ズルコトアリ	

海軍公報 (部内限) 第三千五十八號 昭和十三年十一月十日

一三三五

1131

陸軍主計少尉 堤 孝
臨時海軍特務部ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官
待遇トス(註明海軍省)

海軍機關少佐 磯部 太郎
第三課兼第一課勤務ヲ命ス(註明海軍省教育局)

○ 雜 款

○司令驅逐艦復歸
第五驅逐隊司令ハ十一月七日司令驅逐艦ヲ朝風ヨリ旗
風ニ復歸セリ

○郵便物發送先
第五驅逐隊(朝風缺)宛

自 今

追テ隊機關長、軍醫長宛ハ 吳 松 風

第一砲艦隊及長白山丸、長壽山丸宛 吳 自 今

○ 艦船所在 指定ヲ要セズ

○十一月十日午前十時調

【横須賀】 對馬、夕張、鳳翔▲五十鈴▲山城、春日▲

赤城、木曾、長門、口陸奥、口鳥海、摩耶

口曉▲、漣▲、狹霧、口響▲、雷▲、電▲、羽風▲

口伊一▲、伊二▲、伊三、伊四、口伊六▲、伊七

掃二

富士▲、洲崎

(飛龍)▲(高崎)▲(劍埼)▲

【長 浦】 旗風、口秋風、山雲、口夏雲、朝雲、

峯雲、沖風、神風

呂五四、呂五五、呂五六、呂五八、

伊五、口伊二二三、伊一二四

掃五

【石川島】 太刀風

(掃一○)▲

【横 濱】 掃六▲

【浦 賀】 北上▲

夕風▲

(霞)▲(不知火)▲(掃八)▲

【館 山】 澤風▲

【大 湊】 波風、早苗

大泊

【函 館】 若竹▲、吳竹▲

【 吳 】

矢矧、韓崎、比叡▲、淀、淺間、扶桑▲、古鷹▲、

加古▲、大井、最上、日向、伊勢▲、口大鯨、

口熊野、鈴谷、三隈

夕顔、口菊、葵、萩、口磯波▲、綾波、浦波▲、

口初雪、白雪、吹雪、朝風

呂五一、呂五三、呂二六▲、呂二七▲、

呂二八▲、伊五一▲、口伊五三▲、伊五五、

口呂三四、呂三三、口伊五七、伊五六、

伊五八、口伊七二、伊七三、伊七一、

口伊六六▲、伊六五▲、伊六七、伊七四、

口伊一二一、伊一二二、口伊七〇、伊六八

攝津、間宮、室戸

(伊一六)▲

【大 阪】 (黒潮)▲

【神 戸】 伊五四▲、呂五七▲、呂五九▲

(瑞穂)▲(伊八)▲(伊七五)▲

【相 生】 襟裳▲、早鞆▲

【玉 子】 (掃七)▲

【因ノ島】 松風▲、春風▲

【江田内】 平戸▲

【德 山】 鳴戸

【別 府】 (千代田)

【舞 鶴】 吾妻▲、高雄▲、長鯨▲、愛宕▲、敷波▲、帆風

伊五二▲

(叢)▲(陽炎)▲(掃九)▲

【佐世保】

榛名、那智、常磐、名取、青葉、衣笠、霧島、金剛、阿武隈、梨、竹、榎、桃、柳、檜、重、夕風、朝風、若葉、初霜、子日、初春、大潮、朝潮、滿潮、荒潮、峯風、野風、呂三〇、呂三一、呂三二、呂六〇、呂六一、呂六二、呂六四、呂六六、呂六五、呂六七、呂六八、呂六三、伊六三、伊五九、伊六〇、伊六四、伊六一、伊六一

【長崎】

羽黒、(明石)、(利根)、(筑摩)

【鎮海】

葦、柿、榆、沖島、出雲、安宅、嵯峨、鳥羽、勢多、堅田、比良、保津、熱海、二見、嚴島、八重山、白鷹、川内、足柄、球磨、妙高、多摩、天龍、龍田、長良、加賀、神威、能登呂、勝力、千歲、迅鯨、那珂、由良、鬼怒、神通、蒼龍、龍驤、駒橋、八雲、磐手、栗、梅、蓮、夕立、村雨、春雨、五月雨、

【航海中】

尻矢 (十月二十日横須賀發—羅府—)
石廊 (十月二十八日「ホルル」發—吳—)
矢風 (九日門司發—豊後水道—)
沼風 (九日博多發—沖繩沖—)
伊六九 (九日吳發—佐世保—)

白露、有明、夕暮、時雨、江風、海風、涼風、山風、水無月、長月、薄、藤、葛、芙蓉、朝顔、刈萱、菊月、夕月、望月、三日月、追風、疾風、蓼、蓬、菱、島風、汐風、灘風、阜月、朧、曙、潮、天霧、朝霧、夕霧、白雲、薄雲、叢雲、東雲、睦月、卯月、彌生、如月、文月、隼、鵠、鴨、鴻、千鳥、初雁、友鶴、真鶴、鳩、鷺、雉、掃一、掃三、掃四、掃一六、掃一三、掃一四、掃一五、掃一七、掃一八、朝日、膠州、鶴見、野島